

全国学力・学習状況調査の報告

平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果（平成 29 年 4 月 18 日実施）について、本校と全国公立小学校の調査結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

【国語A：主として知識】

国語Aでは、既習内容についての知識・理解が問われる問題が出されました。ほぼ全国平均を上回る正答率でした。特に「読む能力」の、俳句の情景を捉える趣旨の出題に対し、適切な回答ができていました。「言語についての知識・理解・技能」では、漢字を正しく書く問題の正答率が全国平均を下回る結果となりました。言語に関する基礎的な学習内容の定着を引き続き丁寧に行っていきたいと思えます。

【国語B：主として活用】

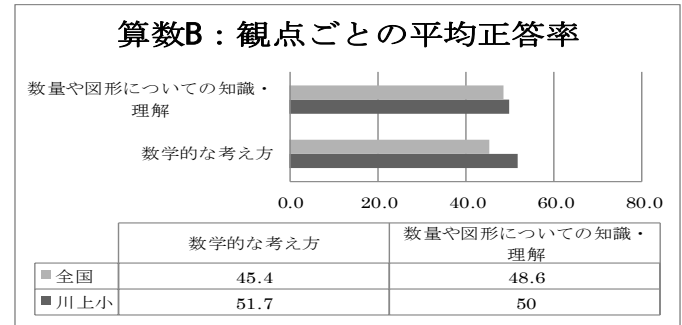
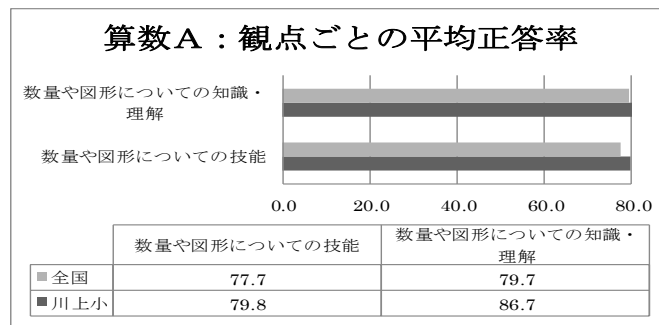
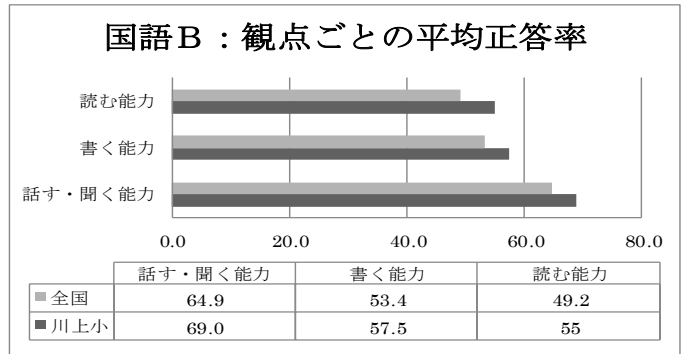
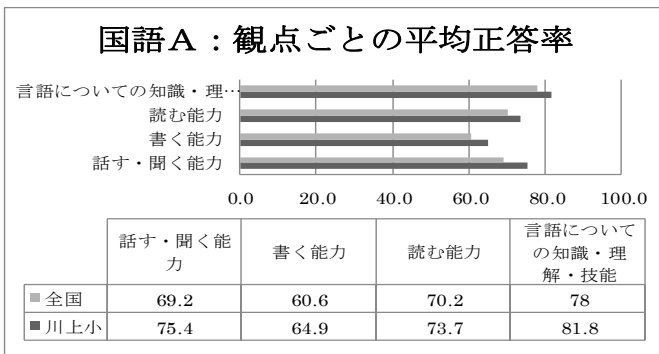
国語Bでは、既習事項の活用力を問われる問題が出されました。全体的に全国平均を上回ってはいましたが、「書く能力」の『目的に応じ、必要な内容を整理して書く問題』や、「読む能力」の『自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図をとらえる問題』については、低い正答率となりました。日頃の学習の中で、人の話をしっかりと聞いて内容を整理してメモをとったり、自分の立場や意見を明確にして考えを書いたりする活動を引き続き大切に行っていきたいと思えます。

【算数A：主として知識】

算数Aでは、既習内容についての知識・理解が問われる問題が出されました。「数量や図形についての知識・理解」では、全国平均を上回る正答率でした。「数量や図形についての技能」では、整数の乗法の計算問題での誤答が目立ち、全国平均を下回る結果となりました。繰り返し問題を解く時間を確保し、技能の定着を図る必要性を感じました。

【算数B：主として活用】

算数Bでは、既習事項の活用力を問われる問題が出されました。ほぼ全国平均を上回る正答率でした。特に、問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題では 10 ポイント以上高い正答率でした。唯一下回ったのは、割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶという趣旨の問題で、提示された資料を正確に読み取る力を付けていく必要を感じました。



<児童質問紙の内容について>

生活面と学習面に関する質問の全 92 問に答えました。全体的には、朝御飯をきちんと食べ、規則正しい生活を送っている様子でした。反面、家で計画的に学習を進めたり、予習や復習をしているかという質問については、肯定的な回答率が低くなっており、家庭とも連携をとりながら、自主勉強の意識を高めていきたいと思えます。